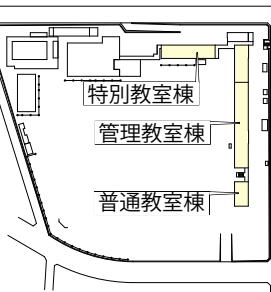
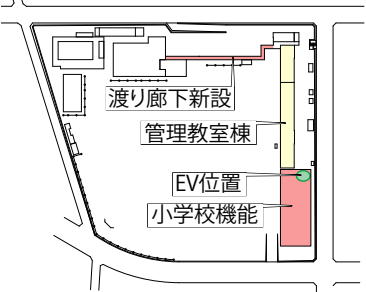
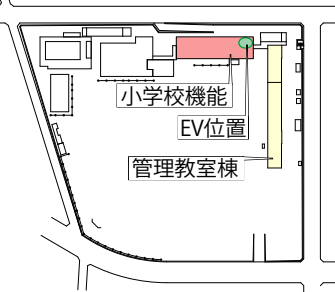
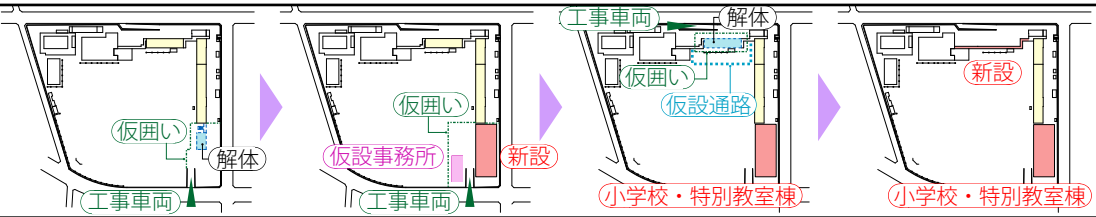
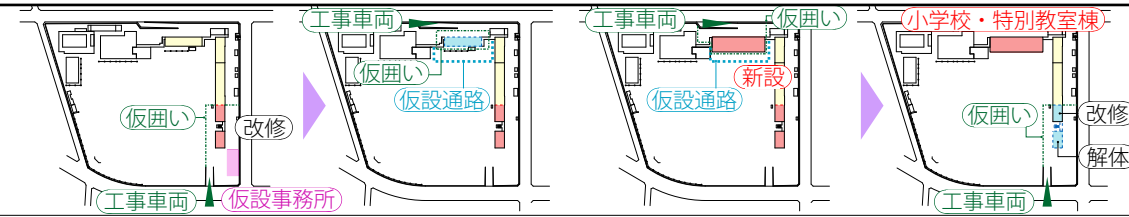


建替対象校舎													
案	既存配置図	A 案					B 案						
													
校舎階数	4 階	4 階											
延べ面積	〇〇〇㎡	3,509 ～ 9,839 ㎡											
計画概要		- 普通教室棟を取り壊し、そこに新築棟を建設する。 - 新築棟には小学校機能および特別教室棟機能を配置。 - 特別教室解体後、体育館と管理教室棟を渡り廊下でつなく計画。					- 新築棟を特別教室棟に設ける計画。 - 新築棟には小学校機能および特別教室棟機能を配置。 - 既存普通教室棟及び管理教室棟内に中学校運営に必要な特別教室機能を整備する。						
工事手順		 - 普通教室棟を解体。 - 新築棟を建設。 - 小学校・特別教室棟の運営。特別教室棟を解体。仮設通路を設け体育館へのアクセスを確保。 - 体育館と管理教室棟をつなぐ渡り廊下を設ける。					 - 普通教室棟及び管理教室棟の一部を特別教室機能に改修。 - 特別教室棟を解体。仮設通路を設け体育館へのアクセスを確保。 - 新築棟を建設。小学校・特別教室機能を整備。 - 普通教室棟を解体。特別教室に改修した管理教室棟を再改修。						
工程イメージ		R9	R10	R11	R12	R13	工程イメージ	R9	R10	R11	R12	R13	
		基本・実施設計	普通教室棟解体 国への手続き	新校舎建設		供用開始 特別教室棟 渡り廊下設置	基本・実施設計 ＋改修設計	普通教室棟改修 管理教室棟改修	特別教室棟解体 国への手続き	新校舎建設		供用開始 普通教室棟解体	
特徴		- 仮設校舎など計画せずに機能移転ができる。 - 一時的な改修が少なく、本設整備以外へのコストを抑えられる。また、機能移転や引越しの回数も抑えられる。 - ローリング手順が比較的単純で工事中の学習環境の変化が比較的小さい。体育館までの動線が遠くなる。 - 新築棟に小学校機能・特別教室機能が一体化するので小学生・中学生の活動領域に配慮が必要。 - 新築工事の工程遅延が後続工程に影響しやすい。 - EV が校舎端部に計画されるため利便性が悪く、配慮が必要になる。					- 学校内の動線をコンパクトにできる。 - 既存普通教室棟をつなぎとして活用することで、特別教室跡地に新校舎を建設できる。 - EV が校舎中央に計画しやすく利便性に配慮した計画がしやすい。 - 普通教室棟及び管理教室棟の一部を特別教室に改修する必要がある。 - 一時利用する特別教室の教育環境・機能確保について検証が必要。						
概算工事費(項目)		新築棟建設費＋普通教室棟解体費＋特別教室棟解体費＋ <u>渡り廊下新設費</u>					新築棟建設費＋普通教室棟及び管理教室棟一部改修費＋普通教室棟解体費＋特別教室棟解体費＋ <u>管理教室棟一部再改修費</u>						